

# 第6学年 学びのカテゴリー「まちづくり」

第6学年は、昨年度第5学年の「暮らし」を探究することを通して、一人一人の暮らし方が違えば、幸せの在り方が違うこと（多様性）に気付き、一人一人の思いや考えを大切に暮らしていくこと（共感）を大切に学んできた。そして今年度は、価値観の異なる一人一人の暮らしの集合体である「まち」に学びのフィールドを広げた「まちづくり」を探究領域としている。「まち」にある「人・もの・こと」をみつめ、「まち」の問題を発見し、その問題を解決するために、自分で課題を立て、自分に何ができるかを考え判断し、解決に向けて実行していく探究学習である。その探究では、「まち」という System を考えていく中でも、いつも頭の中には「あそこに住んでいる〇〇さん」という personal の視点（第5学年で学んできたこと）を大切に、まちづくりを行う中で、自分の生き方をみつめていくことを目指していきたい。

「まちをつくる」という単元では、第1単元「まちをみつめる」を通して、自分たちの「まち」に関わる知的な興味・関心を大切にしながら、繰り返し「まち」へフィールドワークにでかけた。次第に学級ごとで知的な興味・関心の方向は変わっていき、1組は「河原町」、2組は「加納のまち」、3組は「柳ヶ瀬商店街」と探究の拠点ができた。そこで出会った「人・もの・こと」に対して、関わる時間が多くなっていくうちに心が通い合い、他人ごとではなくなってきた。だからこそ、見えてきた「まち」の問題を児童は切実に感じた。そして第2単元では、「自分たちにできることはないだろうか」と「自分ごと」になって、課題を設定してまちづくりのプロジェクトを結成し、活動内容を企画。いよいよ本格的に「まちづくり」が始まった。しかし簡単にことは進まない。児童は、探究を通して起こるエラーやジレンマを乗り越えて、よりよいまちを目指し歩み続ける。

中村みな子  
干場康平  
青木笙悟

6年2組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：まちづくり（全105時間）

第6学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		まちの「人・もの・こと」をみつめ、問題を発見し、その問題を解決するために、自分で課題を立て、自分でできることは何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。									
	(2) 関係構築力に関わって		まちの「人・もの・こと」をみつめていく中で、まちづくりの内容や目的に応じて、他者とつながり、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、互いに納得できる考えを生み出し、活動につなげることができるようにする。									
	(3) 貢献する人間性に関わって		まちで発見した問題を「自分ごと」のように感じ、少しでもそのまちの「人・もの・こと」をよりよくしたいと心から願い、実際に動き出そうとする態度を養う。									
カテゴリー設定の理由	第5学年では、学びのカテゴリーを「暮らし」として、ある人の暮らしを見つめる中で見えてきた問題の解決を通して、一人一人の暮らし方が違えば、生きがいも違うことを学んできた。その学習経験が、第6学年の「まちづくり」において、まちにある問題を解決していくときに、そのまちに住む〇〇さんのことを頭に思い浮かべながら、切実な思いでまちづくりを行う上で、本質を極める探究の実現につながると考える。											
学びの基盤となる道徳的諸価値	自主、自律・克己と強い意志・真理の探究・親切、思いやり・友情、信頼・相互理解、寛容・社会参画・家族愛、家庭生活の充実・集団生活の充実・郷土愛・よりよく生きる喜び											
学びを構成する要素	まち 寄り添う 生活 暮らし 家族 仲間 幸せ 愛 環境 自然 安全 健康 生命 歴史 人 つながり ふれあい 喜び 笑顔 感謝 自分らしさ 個性 夢 決意 創造											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	まちをみつめる～まちの「人・もの・こと」を知る～(52時間)							まちをつくる～まちの「人・もの・こと」がよりよくなるために創造する～(53時間)				
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「まち」とは何かをイメージし、知的な興味・関心を広げる。(インタビュー)</li> <li>○「まち」へ出かけて、「まち」にある「人・もの・こと」と出会う。(フィールドワーク)</li> <li>○「まち」にある特定の「人・もの・こと」に興味をもち、「繰り返し「まち」へ出かけ、対話する。(フィールドワーク)</li> <li>○「まち」にある特定の「人・もの・こと」と継続的に関わる中で、まちの問題(まちに住む方々のつながり・防災意識)を発見する。(フィールドワーク・考え、議論)</li> <li>○「宿泊研修」では、奈良や京都のまちにある「人・もの・こと」に関わる問題と立ち向かってまちづくりを行う人と出会う対話の中で、問題を解決するには、「自分が市民として、同じ思いをもつ人々が集まり、知り合い、そして自らが手入れるプロセスが大切であること」を学び、まちづくりをしていくきっかけとなる。そして「市民としての自分」が鍵を握っていることを知る。(地域の方と協働)</li> <li>○「宿泊研修」で学んだことを振り返り、「まち」にある問題を解決するために、まちづくりプロジェクトを行うことを立ち上げる。(地域の方と協働)</li> </ul>		<p>う 自 分 ま ち づ く り の プ ロ ジ ェ ク ト の ト ク に 体 関 的 わ な る 内 情 容 報 を を 提 取 案 集 で し き た る り 、 よ</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちづくりプロジェクト行う中で、もっとまちの人との距離を縮めたいと願い、繰り返しまちまちにいる方と対話をしたり、まちで行われている活動に参加したりする。(フィールドワーク)</li> <li>○自分たちと同じ問題に対して「まちづくり」を行なっている地域の方と出会う(フィールドワーク)</li> <li>○まちづくりを行う地域の方と、自分たちの思いや考えと、それに関わるプロジェクトについて協働的に考え、議論していく。(フィールドワーク・考え、議論)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちづくりプロジェクト活動の実施に向けて、準備を行う。(フィールドワーク・考え、議論)</li> <li>○まちづくりプロジェクトを実施したときに、本当に「まち」にある問題は解決できるのかを地域人材やそこに住む方々、利用する方々と対話する。(フィールドワーク・考え、議論)</li> <li>○まちづくりプロジェクト活動を実行している中での成果と課題を明らかにして、プロジェクト活動の内容・方法を改善していく。または、あらかじめ活動の目的をまちの人にとってよい方向で見直す。(考え、議論)</li> <li>○プロジェクト活動を実行していく。(フィールドワーク)</li> <li>○プロジェクト活動を振り返り、まちづくりを通して、何を学んだのかをまとめていく。</li> <li>○まちづくりを通して学んできたことを自分の言葉で、これから「まちづくり」に関わる地域の方へ「私たちが学んだまちづくりについて」発信していくことで思いや願いを広げていく。(表現)</li> </ul>					
想定される●ジレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「まち」の問題に対して、自分たちにできることは全くない気がする。</li> <li>●どうして、この「まち」の人は、この問題をそのままにしているのだろうか。モヤモヤする。</li> <li>【真理の探究・親切、思いやり・相互理解、寛容・社会参画・郷土愛】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■まだまだ自分たちは、まちの「人・もの・こと」の状況知らない。</li> <li>【真理の探究・相互理解、寛容・社会参画・郷土愛】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■自分たちが行おうとしているプロジェクト活動の内容は、まちの人への効果はないのかもれない。どうすることで、まちの人にとって効果がある活動内容になるのだろうか。</li> <li>●(プロジェクトの実行中)自分たちは正しいと思っていたプロジェクト活動の内容が、全てのまちの人に応していないという事実に対して、正しいことだから続けるのか、全員に合わないからやめるべきか、それとも…どうしたらよいのだろうか。</li> <li>【真理の探究・相互理解、寛容・社会参画・郷土愛・よりよく生きる喜び】</li> </ul>					
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加納東地区自治会連合会 会長 川田 政美</li> <li>・岐阜大学地域科学部 富樫 幸一</li> <li>・岐阜大学社会システム経営学環 高木 朗義</li> <li>・加納東公民館の職員の方々</li> <li>・加納東地区に住んでいる方々</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・加納東地区自治会連合会 会長 川田 政美</li> <li>・岐阜大学地域科学部 富樫 幸一</li> <li>・岐阜大学社会システム経営学環 高木 朗義</li> <li>・加納東公民館の職員の方々</li> <li>・加納東地区に住んでいる方々</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・加納東地区自治会連合会 会長 川田 政美</li> <li>・岐阜大学地域科学部 富樫 幸一</li> <li>・岐阜大学社会システム経営学環 高木 朗義</li> <li>・加納東公民館の職員の方々</li> <li>・加納東地区に住んでいる方々</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・加納東地区自治会連合会 会長 川田 政美</li> <li>・岐阜大学地域科学部 富樫 幸一</li> <li>・岐阜大学社会システム経営学環 高木 朗義</li> <li>・加納東公民館の職員の方々</li> <li>・加納東地区に住んでいる方々</li> </ul>					
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語：聞いて、考えを深めよう</li> <li>・社会：日本国憲法 国の政治 願いを実現する政治</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数：棒グラフと折れ線グラフ 円グラフと帯グラフ データの活用</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語：調べた情報の使い方</li> <li>・社会：わたしたちの生活と政治</li> <li>・算数：データの活用</li> <li>・理科：電気と私たちの暮らし てこのしくみとはたらき</li> </ul>					

6年2組 単元シート

本単元の目標

単元名	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
	<p>まちをつくる ～まちの「人・もの・こと」がよりよくなるために創造する～  (53)</p>	<p>①加納のまちの「人・もの・こと」をみつめ、まちの問題を発見できるようにする。 ②問題を解決するために、自分で課題を立て、自分にできることは何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。</p>	<p>①加納のまちの「人・もの・こと」をみつめていく中で、まちづくりの内容や目的に応じて、他者とつながることができるようにする。 ②つながった他者に自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、互いに納得できる考えを生み出し、活動につなげることができるようにする。</p>

<p>活動の計画</p> <p>○「つながり」と「防災」の二つの視点で「全力まちづくりプロジェクト」の具体的な活動内容を企画する。(問題②) ○まちにフィールドワークへ行き調べたり、確認したりしてプロジェクトの準備をする。(貢献①)  (15)</p>	<p>○「全力まちづくりプロジェクト」の活動内容を再検討するために、まちに住む方と対話する。(関係①) ○プロジェクト活動の準備をしていく中で、起こったジレンマやエラーを共有し、考え、議論する。(関係②) ○プロジェクト活動の内容に応じたフィールドにて、目的をもって準備を行う。(問題②)  (19)</p>	<p>○「全力まちづくりプロジェクト」を実行する。(問題②) ○プロジェクト活動中、まちに住む方の意識を調査する。(貢献②) ○「全力まちづくりプロジェクト」の活動の成果や課題を振り返る。(問題②)  (7)</p>	<p>○「全力まちづくりプロジェクト」の活動内容を振り返ったとき、今後のまちの様子が気になり、まちに住む方に「このまちの人・もの・こと」の素晴らしさについての思いや考えを発信していきたいと願い、最後のプロジェクト活動を企画し、準備する。(問題②) ○まちに住む方に自分たちのまちへの思いや考えを発信する。(貢献②)  (12)</p>
--	--	--	---

<p>加除修正欄</p>			
--------------	--	--	--

<p>想定される姿</p> <p>・「つながり」を生み出すためにまちの人が一緒に活動できるイベントをしたり、「減災」につながるように、このまちや人にあった防災マップを作ったりしたい。</p>	<p>・「つながり」を生み出すには、一度の活動ではなくて、継続的なものにしていくことが必要だ。 ・「減災」を目指したときに、高齢者や外国人の方、障がいのある方も含めて、その人に合った防災マップ作りや、共助の方法を考えていく必要がある。</p>	<p>・プロジェクト活動を実行するために準備をしているが、支えてくれる方が見えてすごく嬉しい。そして、それはまちづくりで大事な「まちに住んでいる人が、自分ごとでまちづくりをしているまちがよいまち」につながっていると思う。</p>	<p>・私にとってこのまちは、とても大切で大事なまちになった。そして、このまちの人やこと(行事)、もの全てがとても魅力的で大好きだ。 ・まちの魅力と感謝の思いをまちの人に伝えたい。</p>
---	---	--	--

<p>実際の姿</p>			
-------------	--	--	--

<p>●ジレンマ ■エラー</p>	<p>■今の防災マップやつながるイベントでは、「その時だけ」になってしまい、まちの人の日常につながらない…。 ●一人一人が災害に備えたり、まちに住む人とつながったりすることは大事なはずなのに、高齢者や外国人、障がいがある方の中には、防災をあきらめたり、つながりに必要性を感じない方もいる。それは、それぞれに事情があつてのことだと理解できるが…どうしよう。</p>
-----------------------	---

6年2組 本時案 (6年2組教室)

目標

まちの防災イベントを企画し準備を行う中で、「つながり」や「防災」に必要性を感じていない方がいるという事実を知り、ここまでに出会った人から学んだことや自分が経験した事実を基に今後の活動をどうすべきかを考え、議論することを通して、人それぞれに見えない思い(価値観)があることに気づき、その思い(価値観)を大切に一人一人に応じた長期的な活動も行っていきたいと活動内容を考えようとする。(貢献する人間性)

本時 (23/53)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p><b>1 これまでの歩みを振り返り、共有する。</b>            ○現在の「全力まちづくりプロジェクト」の問題点について確認する。            ・自分たちは、まちの人にとって「つながり」や「防災」は必要だと思って活動をしてきているけれど、まちの人の中には自分たちと価値観が違って、「つながりたくない」と思っている方がいる。「つながりたくない」と思っている人は、イベントに来ない。            ・まちの人の思いをダイレクトに聞いた調査でも、「自分に関わらないでほしい」と言って避けるようにしていた方もいた。外国人の○○さんは「どうしてつながらないといけないの」と話していたし、プロジェクトメンバーの入学さん(地域包括センター南部)は、市の職員やまちづくりを行っている人たちもみんなこの問題を解決できないでいると言っている。もうどうしようもない。            ・でも私は、みんなが「つながり」と「防災」を大切にできるまちをつくっていきたいからあきらめたくない。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>「つながりたくない」と思うまちの人とどのように向き合うべきなのか、今後の「全力まちづくりプロジェクト」の活動について考えよう。</p> </div> <p><b>2 「全力まちづくりプロジェクト」の今後について考え、議論する。</b>            ・「つながりたくない」と思ってみえる方は、それぞれに抱えている思いや悩みがあるのじゃないかなあ。入学さんから聞いたのだけれど、その思いや悩みは様々あって例えば①コミュニケーションがうまく取れない方、②障がいがあることを受け入れることができずに、自分の弱い部分を安心して人に見せられない人がいると聞いた。「つながりたくない」人は、自分勝手ではないと思う。            ・人の価値観はその人の生きてきた経験でつくられたものだから、きっと理由があるはず。そのことは、知ったらいけないし、分かることは難しいかもしれないけれど、それでも分かりたいと思う気持ちをあきらめたら、その人のことを本当の意味で助けることにはならないのではないかなあ。            ・プロジェクトメンバーの堀さん(加納長刀町自治会長)が、顔見知りになること、あいさつ交わすことの繰り返しがつながりになっていくのかもしれないと話していた。もっとまちの人が長期的に関わり合い、顔見知りになったり、あいさつを交わしたりすることができる活動を行うこともしていきたい。自分たちと価値観が異なっても、その人を大切にしながら、少しずつでも分かり合えてつながることになるかもしれない。</p> <p><b>3 今後の「全力まちづくりプロジェクト」の活動内容について、個で考えたり協働で考えたりする。</b>            ※自ら他者とつながって協議したり、自分の席でワークシートに書きまとめたりして、今後のプロジェクトの活動内容を考える。</p> <p><b>4 本時の学びの振り返りをワークシートに書く。</b>            ・人にはそれぞれ思い(価値観)があり、その思い(価値観)を分かろうとあきらめずに長い時間をかけて少しずつ関わっていくことがとても大切だということが分かった。次のプロジェクト会議では、少しずつつながるために毎週あいさつウォーキングを試みたいと川田さん(加納東地区連合会長)に提案しよう。</p>	<p>○考え、議論する目的や内容を明確にするために、児童それぞれの思いを出し合い、それを児童たち自身で集約し整理するようにする。(本時教師が、「それぞれの共通点って何?」と必要に応じて切り返し、児童が整理することができるようにする)</p> <p>○自分の目で確かめた事実を基に、自分の思いや考えを伝え合えるように、根拠や理由がない場合は「どうしてそう考えたのですか?」と切り返して、何を基にしたのかを明らかにする。</p> <p>○本時考え、議論した中での児童が出した共通理解を板書に位置付けて共有することで、それが振り返りの視点となり、次への活動に繋げることができるようにする。  <u>思い(価値観)を大切に・長期的な活動</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>目標に迫った姿をどのように見届けるか</b>              ここまでに出会った人から学んだことや自分が経験した事実を基に、人それぞれに見えない思い(価値観)があることに気づき、その思い(価値観)を大切に一人一人に応じた長期的な活動も行っていきたいと活動内容を考えようとしている。(貢献する人間性)              ・発言の様子やワークシートの記述から見届ける。</p> </div>

6年3組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：まちづくり（全105時間）

第6学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		まちの「人・こと・もの」をみつめ、問題を発見し、その問題を解決するために、自分で課題を立て、自分でできることは何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。											
	(2) 関係構築力に関わって		まちの「人・こと・もの」をみつめていく中で、まちづくりの内容や目的に応じて、他者とつながり、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、互いに納得できる考えを生み出し、活動につなげることができるようにする。											
	(3) 貢献する人間性に関わって		まちで発見した問題を「自分ごと」のように感じ、少しでもそのまちの「人・こと・もの」をよりよくしたいと心から願い、実際に動き出そうとする態度を養う。											
カテゴリー設定の理由	第5学年では、学びのカテゴリーを「暮らし」として、ある人の暮らしを見つめる中で見えてきた問題の解決を通して、一人一人の暮らし方が違えば、生きがいも違うことを学んできた。その学習経験が、第6学年の「まちづくり」において、まちにある問題を解決していくときに、そのまちに住む〇〇さんのことを頭に思い浮かべながら、切実な思いでまちづくりを行うという本質を極める探究の実現につながると考える。													
学びの基盤となる道徳的諸価値	自主、自律・克己と強い意志・真理の探究・親切、思いやり・友情、信頼・相互理解、寛容・社会参画・家族愛、家庭生活の充実・集団生活の充実・郷土愛・よりよく生きる喜び													
学びを構成する要素	まち 寄り添う 生活 暮らし 家族 仲間 幸せ 愛 環境 自然 安全 健康 生命 歴史 人 つながり ふれあい 喜び 笑顔 感謝 自分らしさ 個性 夢 決意 創造													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
単元名(時数)	まちをみつめる～まちの「人・こと・もの」を知る～（52時間）						まちをつくる～まちの「人・もの・こと」がよりよくなるために創造する～（53時間）							
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「まち」とは何かをイメージし、知的な興味・関心を広げる。（話し合い・授業参観でのインタビュー）</li> <li>○「まち」へ出かけ「まち」にある「人・こと・もの」と出会う。（フィールドワーク）</li> <li>○「まち」に繰り返し、出かけていく中で、「まち」にある特定の「人・こと・もの」に興味をもち問い続ける。（フィールドワーク）</li> <li>○「まち」にある特定の「人・こと・もの」と継続的に関わる中で、まちの問題を発見する。（フィールドワーク・考え、議論）</li> <li>○「宿泊研修」では、奈良や京都のまちにある「人・もの・こと」に関わる問題と立ち向かってまちづくりを行う人と出会い対話の中で、問題を解決するには、「自分が市民として、同じ思いをもつ人々が集まり、知り合い、そして自らが入力するプロセスが大切であること」を学び、まちづくりをしていくきっかけとなる。そして「市民としての自分」が鍵を握っていることを知る。（地域人材）</li> <li>○「宿泊研修」で学んだことを振り返り、「まち」にある問題を解決するために、市民としてプロジェクト活動を行うことを計画する。</li> </ul>			柳ヶ瀬商店街に関する情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちと同じ問題に対して「まちづくり」を行なっている地域の方と出会う。（フィールドワーク）</li> <li>○まちづくりを行う地域の方と、自分たちの思いや考えと、それに関わるプロジェクトについて協働的に考え、議論していく。（フィールドワーク・考え、議論）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に「まち」にある問題は解決できるのかを地域人材やそこに住む方々、利用する方々と対話する。（フィールドワーク・考え、議論）</li> <li>○プロジェクト活動の実施に向けて、準備を行う。（フィールドワーク・考え、議論）</li> <li>○プロジェクト活動の成果と課題を明らかにして、プロジェクト活動の内容・方法を改善していく。または、あらためて活動の目的を見直す。（考え、議論）</li> <li>○「まちづくり」プロジェクト活動を実行していく。（フィールドワーク）</li> <li>○プロジェクト活動を振り返り、「まちづくり」を通して、何を学んだのかをまとめていく。</li> <li>○「まちづくり」を通して学んできたことを自分の言葉で、次に「まちづくり」を行う5年生や、これから「まちづくり」に関わってほしい地域の方へ「私たちが学んだまちづくりについて」発信していく。</li> </ul>						
想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「まち」の問題は、自分たちのような子供が何かできることなのだろうか。全く何もできない気がする。</li> <li>●どうして、この「まち」の人や、この「まち」を利用する人は、この問題をそのままにしているのだろうか。モヤモヤする。</li> <li>【真理の探究・友情、信頼・相互理解、寛容・集団生活の充実・郷土愛など】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■自分のしたいことと、「まち」が望んでいることが違う。</li> <li>●「まちづくり」で自分は〇〇したい。でも、そこに住む〇〇さんは～した方が良いと言っている。</li> <li>【真理の探究・相互理解、寛容・社会参画・集団生活の充実など】</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■私たちが行うプロジェクトは、「まちづくり」としてみたときに、〇〇の部分が貢献できていない。</li> <li>●プロジェクトを実行するとき、〇〇をすべきか、それとも〇〇なのか、どちらかを優先すべきなのか決められない。どちらも思いや願いがある。どのようにしていくことがベストなのだろうか。</li> <li>【克己と強い意志・真理の探究・相互理解、寛容・社会参画・集団生活の充実・郷土愛・よりよく生きる喜びなど】</li> </ul>						
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会 水野 琢朗</li> <li>・柳ヶ瀬を楽しくする株式会社 福富 梢</li> </ul>				柳ヶ瀬商店街に関する情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会 水野 琢朗</li> <li>・柳ヶ瀬を楽しくする株式会社 福富 梢</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会 水野 琢朗</li> <li>・柳ヶ瀬を楽しくする株式会社 福富 梢</li> </ul>					
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語：聞いて、考えを深めよう 話の内容を捉えて</li> <li>・社会：日本国憲法 国の政治 願いを実現する政治</li> <li>・算数：棒グラフと折れ線グラフ 円グラフと帯グラフ データの活用</li> </ul>			柳ヶ瀬商店街に関する情報を収集する					<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語：調べた情報の使い方</li> <li>・社会：わたしたちの生活と政治</li> <li>・算数：データの活用</li> <li>・理科：電気と私たちの暮らし てのしくみとはたらき</li> </ul>					

6年3組 単元シート		本単元の目標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
<b>単元名</b> まちをつくる ～まちの「人・もの・こと」がよくなるために創造する～ (53)		①繰り返しまちに関わる中で、問題点を発見し、解決するために課題を立て、自分のできることを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。	①よりよいまちづくりをするために、進んで他者とつながり、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりすることができるようにする。 ②様々な立場の人の思いを尊重しながら、互いに納得できる考えを生み出し、活動につなげることができるようにする。	①まちで発見した問題を「自分ごと」のように感じ、少しでもそのまちの「人・こと・もの」をよりよくしたいと心から願い、実際に動き出そうとする態度を養う。
活動の計画	○まちに繰り返し訪れ、柳ヶ瀬にいる人の思いを聞くことを通して、自分たちがしたいまちづくりについて見つめ直す。(貢献①) ○まちづくりに対する自分の願いと、まちの人の望むことを比べながら聞く。(関係①) (8)	○人によって願いに違いがあることに気づき、どうすればよいか話し合っまちづくりのテーマを改める。(関係①) ○プロジェクトを企画し、活動の実施に向けて準備を行う。(貢献①) (18)	○プロジェクトを実行し、まちの人に感想を聞く。(関係①) ○プロジェクトを通して気付いた問題点について話し合ったり、まちの人の思いを聞きに行ったりする。(問題①) ○プロジェクト活動の内容・方法を改善しながら、継続していく。(貢献①) (21)	○プロジェクト活動を振り返り、自分たちが見つけた柳ヶ瀬の魅力や、活動を通して学んだことを5年生や地域の方に発信する。(貢献①) (6)
加除修正欄	○柳ヶ瀬中央市場の活動停止を受け、今の自分達が柳ヶ瀬のためにできることは何かを考えた。			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>柳ヶ瀬の建物を見るよりも、そこにいる人に聞いた方が、もっと柳ヶ瀬について知ることができると思う。</li> <li>商店街の〇〇さんは、もっと若いお客さんに来てほしいと言っていたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大通りに店を構える〇〇さんは、新しいことを取り入れていきたいと思っているけど、細い通りの〇〇さんは、今のままでいいと話していたよ。</li> <li>柳ヶ瀬商店街で新しく始められた取組のお手伝いをしよう。</li> <li>イベントのお手伝いをしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんは手伝ってくれたことに喜んでいたよ。</li> <li>イベントがある日は人が集まるけど、そうでない日には人が来ない。</li> <li>子どもが楽しめる要素が少ないのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>柳ヶ瀬はシャッター街のイメージが強くて、活気がないイメージだったけど、まちを知るうちに、柳ヶ瀬が変化していることが分かった。まちの人はそれぞれが願いをもって活動していることを学んだ。</li> </ul>
実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>柳ヶ瀬中央市場ができて、にぎわっていたが、三日でなくなってしまい、また静かになってしまった。しかし、今ある店にも良さがあるんだから、宣伝をしたい。</li> </ul>			
●ジレンマ ■エラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分たちのしたいこととまちの人が願うことが違う。</li> <li>■自分たちはイベントをすることで人が集まると思っていたけど、集まるのはその日だけで、それ以外の日は少ないまま。</li> <li>■柳ヶ瀬はたしかに良さがあるんだけど、それがまちの外にいる人には伝わらない。</li> <li>●まちにいる人の願いを大切にしたいが、人によって望むことが違う。どうしたらいいかな？</li> </ul>			

6年3組 本時案 (6年3組教室)

目標

まちの人に聞いてきた柳ヶ瀬に対する思いを伝え合い、今後の自分たちの活動を考えることを通して、様々な立場の人の考えを受けてまちづくりをしたいという思いを基に、その違いにどう向き合うかを考えることができる。(関係構築力)

本時 (12/53)

活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け										
<p><b>1 それぞれが聞いてきたまちにいる人の願いを共有する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>柳ヶ瀬の人たちの思いをもとに、これからの活動を考えよう。</p> </div> <p>○まちの人の思いを伝え合いましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 30%;">柳ヶ瀬を活性化させたいという思い</td> <td style="width: 10%;"><math>\leftarrow</math></td> <td style="width: 20%; border: 1px solid black;">迷い</td> <td style="width: 10%;"><math>\rightarrow</math></td> <td style="width: 30%;">現状のままでいたいという思い</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>柳ヶ瀬をもっと若い世代でにぎわうまちにしたい。そのためには、今ある店が力を合わせる事が大切。</li> <li>柳ヶ瀬商店街をなくすわけにはいかない。</li> </ul> </td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>高島屋が閉業してしまって、人通りが少なくなりました。このままではいけないと思うが、どうしたらよいかわからない。</li> </ul> </td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の店はこのままでいい。宣伝をして、自分の店にたくさん人が来てほしいとは思わない。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>・私たちは「若い世代でにぎわうまちになるといい」と思っていたけど、そう思っていない人もいるのは、どうしてだろう。</p> <p><b>2 まちの人の思いが異なる要因を知り、自分たちの活動を考える。</b></p> <p>○「現状のままでいたい」と考えるお店は、もう長年店をやってきて、ご年配の夫婦が2人で店をやっているそうです。今よりも人が増えても、お客さんに満足してもらえるようなサービスができないから、常連客だけでいいと話していました。どうしたらいいでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宣伝してほしいと思っている店はあるのだから、そういう店だけを宣伝していけばいいと思う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">→ 宣伝活動をしたい。</span></li> <li>宣伝にこだわらなくてもいいと思う。そういうお店があるのに、宣伝活動を続けてしまっているのかな。全てのまちの人の思いを大切にしたいなら、他の活動を考えた方がいいんじゃない？ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">→ 活動を修正したい。</span></li> <li>そもそもまちの人の思いはばらばらなんだから、全てを大切にすることはできないと思う。</li> <li>まちの人の思いは大切だけど、自分たちの願いは「若い世代でにぎわうまちにしたい」ということだから、そこは変えちゃいけないと思う。それならば、やっぱり今は宣伝をした方がいい。</li> <li>まだまちの人の思いを全て聞けてはいないから、もっと柳ヶ瀬で思いを聞いた方がいいと思う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">→ もっと町の人との関わりを大切にしてから考えたい。</span></li> </ul> <p><b>3 本時の学びの振り返りをワークシートに書く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私は、人がたくさん来てにぎわうことが柳ヶ瀬商店街にとって良いことだと思っていたけれど、そう思っていない人がいることが分かった。全ての人の思いを実現することはできないけれど、より多くの人によいと思ってもらえるようなまちづくりがしたい。なぜなら、このままでは柳ヶ瀬商店街から人がどんどん少なくなってしまうし、それではいけないと思う。だから、宣伝活動をしたと思う。</li> </ul>	柳ヶ瀬を活性化させたいという思い	$\leftarrow$	迷い	$\rightarrow$	現状のままでいたいという思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>柳ヶ瀬をもっと若い世代でにぎわうまちにしたい。そのためには、今ある店が力を合わせる事が大切。</li> <li>柳ヶ瀬商店街をなくすわけにはいかない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高島屋が閉業してしまって、人通りが少なくなりました。このままではいけないと思うが、どうしたらよいかわからない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の店はこのままでいい。宣伝をして、自分の店にたくさん人が来てほしいとは思わない。</li> </ul>	<p>○本時まで「よりよいまちづくりをするためには、もっとまちの人の願いを聞かなくてはいけない」という意識から、実際に柳ヶ瀬に行き、自分が関心をもった店の人に「柳ヶ瀬がどんなまちになることを願っているか」を聞いておく。それをもとにして、自分の考えを生み出す。</p> <p>○まちの人の思いをふまえて、自分たちの活動を考えるときに、特定の立場に偏った考え方ではなく、様々な立場の人の願いに寄り添っているかを見届けるために「他の立場のまちの人の願いについてはどう思う？」と問う。必要に応じて、自分たちの願いにも目を向けられるように問いかける。</p> <p>○今後の活動を決めるときには、これまでに出会った人が話したことや自分たちが経験したことを思い返して、考えを述べられるように教室掲示にこれまでに出会った人や思いを位置付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>目標に迫った姿をどのように見届けるか</b></p> <p>様々な立場の人の考えを受けてまちづくりをしたいという思いを基に、まちづくりに対する自分の願いをもっている。</p> <p style="text-align: right;">(関係構築力)</p> <p>・発言の様子やワークシートの記述から見届ける。</p> </div>
柳ヶ瀬を活性化させたいという思い	$\leftarrow$	迷い	$\rightarrow$	現状のままでいたいという思い							
<ul style="list-style-type: none"> <li>柳ヶ瀬をもっと若い世代でにぎわうまちにしたい。そのためには、今ある店が力を合わせる事が大切。</li> <li>柳ヶ瀬商店街をなくすわけにはいかない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高島屋が閉業してしまって、人通りが少なくなりました。このままではいけないと思うが、どうしたらよいかわからない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の店はこのままでいい。宣伝をして、自分の店にたくさん人が来てほしいとは思わない。</li> </ul>							